

令和3年度市政懇談会（観光分野）会議録

- 期 日：11月19日（金）
- 場 所：市役所西有家庁舎
- 参加者：9人

現在整備中の自転車歩行者専用道路について、地域の皆さんの買い物や通勤、通学など地域に密接した身近な道路としての利用のほかに、自転車歩行者専用道路を活用した観光・交流振興という側面から観光関連などさまざまな分野の方に参加していただき懇談しました。

以下、主な懇談内容。

自転車歩行者専用道路の整備状況について

【参加者】

・駅舎の活用はどうかたちになるのか。

【市】

・全部の駅舎を活用するわけではないが、いくつかピックアップしながら活用していく方向で考えている。

【参加者】

・専用道路は、そもそもロードバイク用なのか、それとも日常生活で使う自転車くらいの速度を前提としているのか、自転車での速度域はどれくらいか。

※「ロードバイク」…ロードレース用の自転車。

【市】

・活用方針にも示しているが、基本目標をスローサイクルと定めている。人も歩く道路であるので、スピードを出して通行するのではなく、ゆっくり地域を散策してもらいながら走っていただくことを考えて整備している道路である。

【参加者】

・ということであれば、現時点でロードバイクの人たちは、国道を走っている。専用道路ができたあかつきには、速度域が違う道路が2つあるわけで、ロードバイクの人たちは国道を走ることになり自然となっていく。そういう想定で、ゆっくりの方の道ということか。

【市】

・部分的にはそのような形態で走られる方もいらっしゃると思う。ロードバイクの人も自転車歩行者専用道路を通行したり、途中で他の市道を通行するなど、いろいろな利用の形態があると思う。

【参加者】

・もともと線路だった所なので、普通の一般道と交差しているところが多いのかなと思う。車を運転していると、線路だったという記憶が薄れている。そのあたりの安全対策としてストッパーなどの整備

は予定しているのか。

【市】

・踏切であった箇所が相当数ある。交差点箇所には防護柵を設置し、車両が侵入できないようにする。自転車や人が横断することになるので、交差点を分かりやすくするために自転車歩行者専用道路部分を着色するなど検討を行っている。

【参加者】

・ロードバイクはかなりの速度で走るの、ルール決めをした方がいいのではないかと。若干、市民が置いてきぼりになっている事業だと感じる。例えば子どもたちを巻き込んで、子どもたちにルールを作らせるとか、子どもたちに活用する方法を考えさせるなどしたらいいのではないかと。今暮らしている子どもたちは、一度は市外に出る。Uターンで戻ってきたくるような、外で「南島原市には何かがあるのか」と尋ねられたときに「きれいなサイクリングロードがあるからおいでよ」と子どもたちの口から出るようにすることが未来につながるのかなと思う。子どもたちへの周知がこれから必要ではないか。

【市】

・通学路としての利活用もできると考えている。いろいろな意見を聞きながら事業を進めていきたい。施工の途中を見ていただきながら、身近に利用できる道路として整備を進めていきたい。

【参加者】

・安全対策、防犯対策というところで、特に国道と隣接して通っているところ、例えば南有馬の吉川の箇所は怖い感じがする。家のすぐそばを通っているところがあるが、防犯という点からどのような整備を進めていくのか。

【市】

・「のり面」のがけについては、安全対策を図りながら進めていく。どういった工法になるかは検討中である。家の中が覗かれるという不安があるが、プライバシーを守れるように目隠しなどの対策を考えている。

自転車歩行者専用道路の活用方法について

【市】

・令和5年度には全線完成、共用開始ということで進めている。これをどういうふうにしていろんなアイデアをいただいて活用していくかと考えているところだが、どのような取り組み、活用法があるのか考えがあればお聞かせ願いたい。

【参加者】

・島原半島を巡るサイクルイベントの計画を来年度も予定している。観光地やスポットを巡るようなイベントで、宿泊も組み込んで2デイズで実施したいと考えている。宿泊することで宿泊施設も潤う。
・もともと自転車に乗っている人が1回は乗ってみたいということで来ると思う。ファミリー向けなどのコースで、最初ウォーミングアップとしての活用、あとは途中から下りて山に上ったりとか、普通の道路を走ったりとかするコースが多いと思う。そういう視点からいくとブルーラインを引くなど、既存

の国道などの整備も必要ではないか。ファミリー向けだけだと少し弱いのかなと思う。大学生や実業団などを呼ぶにしても同じようなことが懸念されると思う。

・イベントをしてもらえたら人が集まるのではないか。そこでどうやったら南島原の良さを伝えられるかと考えたときに、地域に婦人会がたくさんある。ポイントごとに地元の農産物を使った炊き出しとかをしていただくと、県外とか市外の人に市の特産物を知ってもらえるし、人が集まりやすい。冬にイベントはないのかと尋ねられることがある。自然が多いので山の方に入った方が景色もいいし、気持ちがいいコース設定ができるのではないか。

【市】

・海の方、山の方、いろいろなコースを想定しながら考えていきたい。

【参加者】

・山の方になると冬には雪があるので、登れなくなる不安がある。車でも厳しいときがあるので、自転車だと送迎とかも考えないといけないかもしれない。

・市内の人たちの自転車人口が少ないのかなと思うので、自転車に乗るイベントなどをやって自転車に乗る機会を増やすと、専用道路を活用する人が増えるのではないか。

・第一に考えないといけないのは、どういうふうに市民を巻き込むのかということだと思う。予測だけで市民は成功なのか失敗なのかを描いてしまっている。それは意識的には大損しているよう。せっかくいい取り組みをして生かそうとしているのに、そこに住んでいる地域の方々が「不」を感じているというのがとてももったいない。近くの市民の方が世界遺産になっても何にもならなかったと聞くことがあり残念に思う。よその人が価値を分かって見に来ているのに、地元の人が分かっていない。それは仕掛ける側に責任がある。市民がどれだけ高い価値を持つかということが大事。世界遺産の反省を生かそうという反省を持つこと。市民が夢を持てるように、市民が蚊帳の外にならないように、どう取り組んだら生かせるのかを中心に考えたらいいのではないか。観光は仕掛ける側が大事で、「ここを見せて」「ここでご飯を食べて」「ここに泊まってもらって」「こういう感動を体験してもらって」帰ってもらう。また3年ぐらいしたらまた行きたいなと思ってもらえるような仕掛けをする。来てくださりだけでは、次につながらない。

南島原では野菜など何でも採れるので、何を勧めていいかいつも迷う。そこももったいない。観光事業も多すぎて、2本か3本に絞って取り組んだ方がいいのではないか。あれもこれも取り組むというのは大変だと思う。

・経済を回していく一つのチャンスにしないといけないと思う。「南島原」って聞くよねという話は聞くが、だから何って話になった。全部が点になったままになってしまっている気がする。満島さんの動画、ショートムービー、サウンドロゴなど、全部が点になっていて、結果、南島原は何があるとしたときに、「自然」があるということになる。そこで考えたのだが、フラワーロードにしたらどうか。駅の近くのおばあちゃんのところは、花をいっぱい植えているところもある。その花を眺めに行くというのも魅力の一つになる。若い人はひまわりの印象が強いので、時期を合わせてひまわりを一斉に咲かせたら、人を引き付ける誘客ができる。市内にはたくさんの企業があるので、それぞれの地域の企業でガーデンコンテストなどをしてもおもしろいのではないか。それで経済活動も活発になったり、いろいろな

アイデアが出てきたりするのではないかと思う。

雲仙・普賢岳があるが、深江から見る景色と加津佐の方から見る景色は違うので、各地域の撮影ポイントにデッキをつくって、写真を撮ってもらうなどの取り組みが必要。イベントとかではなくて通常経済が回るような方法がないと人はなかなか来ない。若い20代の人たちはかなり都会から帰り始めている。こういう会議とかで発言してもらう機会、若者会議的なもの、中学生でも高校生でもいいと思うが、彼らの夢を聞くみたいなものの機会を作って巻き込んでいくのもいいのではと思う。

【市】

・中学生、高校生という話があったが、専用道路のことがそういう子どもたちの家庭の団らんの中で話題にあがるのが大事だなと思う。

【参加者】

・専用道路の脇を生かす方法として、地域に住んでいる人たちを巻き込みたい。何メートルかおきに地域や団体に貸し出すとか、そういう使い方もできるのではないか。市民にやってもらう仕掛けづくりがあればいい。口之津港でどこか行くところがないかと尋ねられたときに、原城跡とかを伝えるが、行く手段がない。タクシー会社と連携しての商品を作り上げるなどしてもいいのではないか。市の入り口に観光案内所があればいい。人を置くのが無理なら、タブレットなどをコンビニなどに置かせてもらって、検索できるような方法もいいのかと思う。

・南島原にきて3年半になる。短所と思っているものが実は長所になるのではないかと思っている。町、集落の結束、地域コミュニティの結束が強くて本当にすばらしいと感じている。その部分は南島原の強みだと思う。以前列車が通っていて、皆さんそれぞれの思い出があると思う。駅や線路は人の交流があったところなので、廃線をキーワードにするためには、町単位で仕掛けていく方がいいのではないかと思う。当事者である地域の人あまり知らない状態で、どう伝えていくかの取り組みが難しい。でもそれをやらなければ大きなハードができて、ソフトも小さなハードも足りていない状態でスタートしてしまうことになる。島鉄バスに自転車を乗せることができるようにするとか、タクシー会社と連携するとか、小さなハードを詰めていくということ。交流を促進するために各町の地域の対決とか、町単位でのコミュニティの強さを出して、みんなで結束するときは結束するような仕組みができればと思う。あとは駅舎をうまく利用すること。サイクリングが整備されてもどこに行ったらいいとか分からない。地元高校生によるチャレンジショップのようなことができれば、経費をかけずに盛り上がっていくのではないかと思う。ここに住んでいる人たちが動かしていくという感覚を持つことが大事なのではないかと思う。

・南島原の自転車のことで気になっていることがある。原城跡にあるレンタル自転車などもそうだが、ロードレーサーの人たちは事故にあったときのために、個人賠償責任保険などに加入している。ロードの人たちは、自分たちが事故するかもしれないといった意識があるから加入しているが、あまりその意識がない観光客などが来て自転車に乗って事故を起こしたときに、どうするかということも準備しておくことが必要だと思う。原城跡のレンタル自転車についてもそうだが、TSマークが付いていると思う。ただTSマークは補償額が少ない上に示談交渉ができない。保険会社の保険は示談交渉までしてくれる。観光で来て事故を起こしたら示談交渉まで自分でしなければならぬ。ただ、保険会

社の方も、観光客が乗っている自転車に保険をかけるのはリスクが大きいと、及び腰である。南島原でレンタル自転車を貸し出すときは、事故を起こしたときにレンタカーのような状態で対応できるようにかたちにしてあげることが安心につながると思う。

※「TSマーク」…自転車安全整備士が点検確認した普通自転車に貼付されるもので、このマークには傷害保険と賠償責任保険、被害者見舞金（赤色TSマークのみ）が付いている。

・よそに行ったときに「長崎県ではどこに行きますか」と尋ねると、例えば「ハウステンボス」と答えが返ってくる。今、南島原は通過点になっている。少しずつれるかもしれないが、電動キックボードなどの規制緩和に向けての動きが始まっている。ヘルメットを着用してもしなくてもいいことになる。例えば熊本からフェリーで来て、有家・西有家まで行って雲仙に宿泊する人がいて、そこで車をおいて行って代行が運ぶとなれば、代行の経済も潤う。電動キックボードはそこで回収するということにして、少しでも観光客に使ってもらうようにすればいい。ジオパークのシンポジウムの中で、島原半島で6時間滞在する時間を作りたいと話されていた。電動キックボードだと2時間ぐらしかかる。マイクロツーリズム、近場で観光客を呼びたいということになってきている中で、アクティビティとして遊んでもらえるような場所があればいいのではないかと。大分県は「温泉県」、香川県は「うどん県」というふうに南島原市は「〇〇市」というような発信が何かあればなと思う。島原半島として島原市、雲仙市に比べて南島原市はキーワードが弱いと感じる。野菜とか何でも作っている。例えば、南島原市では農薬のネオニコチノイドは絶対使わないなどの取り組みをすれば、ふるさと納税でも注目を浴びるのでは。せっかくこれだけの農地があるので、よそにない魅力が発信できないかなと思う。

・市民の巻き込み方だが、自転車のスタンドや休憩できるベンチ、トイレなどを民間に呼び掛けておに設置してもらって、そこのお店の分を使っていいというのを行政から打ち出してもらって、そこに補助金を出してもらえれば、町全体で専用道路に対する意識が向くのではないかなと思う。

【市】

・さまざまなかたちで巻き込んでいくことが大切。皆さんのいろいろなアイデアをしっかりと検討していきたい。

【参加者】

・計画があって整備が先に進んでいるのだが、地域から盛り上がりからサイクリングロードを整備している地域がほとんど。補助金の関係もあって整備の方が先に進められている。島鉄が廃線になって15年から20年。そのままではもったいない。サイクリストではなく、観光客の利用の方が多いいかなと考えている。そうなるとおもてなしという面で、沿線の美化、自分の家の周りは自分たちで管理しながら人を迎え入れられるような仕掛けがあればいい。そこに店が出せるような仕組みができれば収入も得られるし、皆さん楽しんでいけるのではないかなと思う。

・市長が感じているサイクリングロードのイメージは、どういうものを楽しみたいと思っているのか。

【市】

・線路跡を何か活用できる方法がないかということで、年月が過ぎて何にもならなかった、ということではどうにもならないと思った。家の裏とか畑の側とか、ここが欲しいという人もいらっしまったと思うが、そういう人だけで細切れにして利用しないところはそのままというような状況よりも、一体として

活用できる方法はないかという思いがあった。今、よそからおいでになって国道を走っておられるサイクリングではなくて、風景を楽しみながら自転車に乗って通っていただく、また市民の皆さんがジョギングをしてみたり、歩いてみたり、年齢を問わず人が行きかうような線路跡になれば一番いいと思う。それだけではなく、経済的な面も考えないといけない。よそからもおいでいただいて、それをきっかけにして町中に入るとか、上から眺めるポイントを設置するなどしていけば、いろんなことで市の発展、振興のための相乗効果の役目を果たすと思う。やはりそのために、皆さん方が一休みしたりする所やトイレ施設、駅舎などを活用しながら準備していくことが、市の将来のためになると考えた。そのためには沿線だけではなく地域の人たちも巻き込んで、除草や管理をしたり、歩いたり自転車に乗ったりして、市外に向けても情報発信していけるようにしていきたいと考えている。

【参加者】

・南島原市ってイメージ的なものしかなかった。それぞれの特徴のある8町が集まって一つの市になっている。個性あふれる人たちの唯一の同じツールが一本になる。個性が別々の地域が一本になっていく軸になってほしいし、ならないといけない。ぼんやりとしたイメージだけではなく、専用道路を活用した、おもしろくキラキラした感じの、声がたくさん聞こえてコミュニティのつながりができるような。

【市】

・廃線になった加津佐から水無川まで歩いた。国道と並行したところもあるが、草の中を歩いていった。こういう風景を整備したところで自転車や歩いて通ってほしいと思った。

【参加者】

・ジオパークもなかなか皆さんに周知ができていないと聞いたことがある。それを解決する一つの方法なのかもしれない。

【市】

・こうやって皆さんに共有しながら進めているところだが、国の予算配分の都合もあるので1年は手前にといいことで国からも予算をつけてもらっている。皆さんが良かったと思えるような専用道路にしていきたい。それに向けて建設課に専任のスタッフ、自転車歩行者専用道路の担当班を設けて進めているところである。

【参加者】

・前浜海水浴場に設置されたブランコなどのインスタ映えの取り組みはいいと思う。この前、糸島に行ってきたが、まったく何もなただけの駐車場で、できて3年ぐらいで23万人ぐらいの人が来た。本当に何もなくて、ただインスタ映えするようなものを置いてあるだけで、駐車場を出るときには500円払わないといけない。3年ぐらいで600万円近い収益がでていて、まだ右肩上がりだと聞いた。SNSで勝手に発信してくれている。そういうのに力を入れてもらえればいいと思う。

・30年ぐらい前にできた小長井のフルーツのバス停は、ずっとリニューアルして今やっとな花が咲いている感じ。あんな感じでインスタ映えするようなものを点々と設置すれば、この時間だったら布津のあそこ。この時間だったら有家がいいという風になるのではないかな。

・南島原市の場合、深江の方は朝日がきれい。加津佐まで行くと夕日がきれい。時系列を使って物

を置いていくというのはおもしろいと思う。

【市】

・参考にさせていただきたい。

【参加者】

・初歩的な質問だが、32キロメートルが出来あがるのが令和5年度末ということだが、加津佐の工事が完成したら部分的に開通できるのか。

【市】

・鉄橋の整備次第だが、令和4年度の末には一部通れるようになる。

【参加者】

・もうすぐなので、始まったときにはトイレの場所とかそういうものを、来た人が分かるようにマップなど準備できているようお願いしたい。

・中国とか台湾などは自転車社会が日本よりだいぶ進んでいる。台湾メーカーを誘致して一緒になってやっていくというのはありなのかなと思う。ロードレーサーだけではなく、いろんな人に使ってもらえて、入りやすくなる間口の一つにはなるのではないか。

【市】

・自転車道路の整備をという話が始まったころ、「台湾からは来るよ」という話を聞いたことがある。交差点がいっぱいあるというのは想定せずに話した考えかもしれないが、台湾にはサイクリング人気があるからいっぱい来るという話を聞いたことがある。

【参加者】

・中学校や高校が各地域にあるのでサイクリング部、自転車競技部ができると乗ってくれて利用してくれると思う。

・ロードバイク、クロスバイクに乗ったことがある人がどれくらいいるのか。実際乗ってみると日常生活で使う自転車の3倍くらいの距離を一漕ぎで一気に進む。乗ってみないと分からない。平均で20～30キロくらいのスピードが出る。乗ってみないと分からないのでそういうのが分かれば安全面などの対策がとれるようになるのではないか。観光客で島原方面から来る人が宿泊して雲仙に行って小浜に行って帰るというパターンが多い。いいスポットがあるが、情報発信がなかなかできていない。情報発信がうまくいけば、雲仙ではなく南島原を回って帰ってもらえるのではないか。そうめんが有名だが、そうめん流しがどこにあるのか。深江と有家あたりにもあると思うが、そのあたりの情報があれば、アピールしやすい。原城跡ピンポイントではなく、そこまでの経由地の候補の情報発信があった方がいいと思う。

・もっと遊びたくなるようなところがほしい。観光だけではなく、雲仙では泊まって、鍋蓋卓球をしてもらって、帰る時間を遅らせる取り組みをしている。昼まで居てもらえば昼食を近場で食べてもらえる。自転車を漕ぐだけではなく遊べる場所、普段できない非日常を感じられるようなところがほしい。

【市】

・皆さん方からいただいたさまざまなアイデア、ご意見等を生かして自転車歩行者専用道路の活用に向けてしっかりとやっていきたい。今後ともいろいろなかたちでご意見をいただければありがたい。